

「派遣という働き方」は本意なのか？

派遣スタッフが希望する

それとも不本意なのか？

魅力的な働き方とは？

派遣スタッフ

フリーランス

アルバイト
パート

正社員

「人材派遣という働き方」を選択した理由は人によってさまざま。積極的に人材派遣という働き方を志向する人もいれば、本当なら正社員での就労を希望しているが、それがかなわず「不本意ながら派遣」という人もいる。本特集では人材派遣も含めた多様な働き方がある中で、「あえて派遣スタッフという働き方を選択」した人の実態調査と併せて、派遣スタッフが実は憧れている「魅力的な働き方」などをアンケート調査。本誌独自の視点からデータ分析・検証を行った。

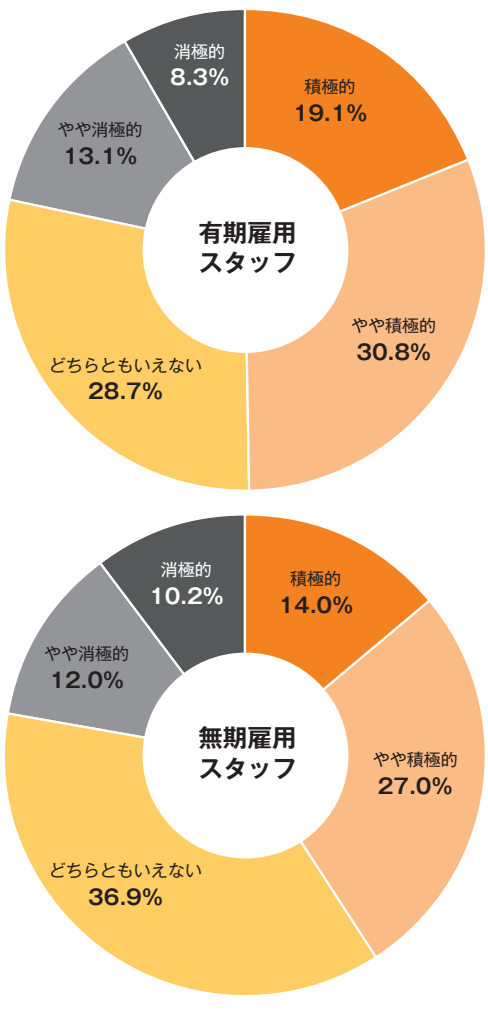
(本誌 伊藤秀範)

■調査概要■

- 実施期間・・・2021年3月9日～14日
- 有効回答数・・・2000人 ●男女比・・・男性868人(43.4%)、女性1132人(56.6%)
- 年齢比・・・10代:3人(0.2%)、20代:133人(6.7%)、30代:395人(19.8%)、40代:728人(36.4%)、50代:741人(37.1%)
- 雇用形態・・・有期雇用:1441人(72.1%)、無期雇用:559人(28.0%)

※回答率(%)は、小数点以下第2位は四捨五入により、小数点第1位までを表示しています。そのため、合計数値は必ずしも100%にはならない場合があります。

図表2 雇用形態(有期・無期)別の「派遣という働き方」を選択したときの気持ちについて (回答は1つ) n=2000



回答率(%)は、小数点以下第2位は四捨五入により、小数点第1位までを表示しています。そのため、合計数値は100%にはならない場合があります。

「派遣という働き方」で、あえて無期雇用を選択したプロセスからは、無期雇用のほうが「積極的に派遣」の印象も受ける。しかし、この質問では「派遣という働き方」を選択したときの「気持ち」を聞いている。「選択したとき」、つまりスタート時点ではあまり「派遣という働き方」については積極的ではなかった人については、このデータを見る限り

には、無期雇用では41・0%と、有期雇用のほうが9ポイントほど上回った。「派遣という働き方」で、あえて無期雇用を選択したプロセスからは、無期雇用のほうが「積極的に派遣」の印象も受ける。しかし、この質問では「派遣という働き方」を選択したときの「気持ち」を聞いている。「選択したとき」、つまりスタート時点では「派遣という働き方」についてはあまり積極的ではなかった人については、このデータを見る限り

と推察できる。派遣スタッフの無期雇用制度は、「派遣の中の安定志向」の受け皿といった側面とともに、当初は「どちらともいえない」と感じていた派遣スタッフに「派遣で積極的に、長期で働く」という新たな選択肢を提示している一面もあることが、このデータからはうかがえる。

最も多く選択したのは20代男性の27・3%。「やや積極的」も含めた「積極派ゾーン」でも20代男性は59・1%と年代で最多。次いで30代男性の54・6%、20代女性の52・8%、30代女性の52・2%の順で、若い世代ほど「派遣という働き方」を積極的に選択している傾向がうかがえる。

一方、「積極派ゾーン」の割合が低かった年代は50代男性の38・4%。40代、50代と年代が高くなるほど、積極派ゾーンの割合が低くなり、逆に消極派ゾーンの割合が高くなる傾向が見られた。あの2008年のリーマン・ショックが発生してから14年ほどが経過している。派遣切り、年越し派遣村などの「派遣の暗黒時代」をリアルに体感した世代の多くはすでに40代、50代である。そうした「派遣の暗黒時代」を体感していない20代などの若い世代には、現在の「派遣という働き方」はどう見えているのか？ という新たな疑問も浮かんだ。今回の調査結果を受けて、本誌では近く、各年代別の「派遣という働き方」における印象調査を検討したいと考えている。

「派遣という働き方」を積極的に選択 20代派遣スタッフで高い割合示す

非正規雇用の中でも「派遣スタッフの不本意度は高め」？

不本意派遣スタッフは多いのか？

「不本意非正規雇用労働者」という言葉が使われるようになって久しい。文字通り、不本意ながら非正規雇用労働者として働いている人を指す。

非正規雇用労働者である派遣スタッフにおいても、「不本意ながら、派遣スタッフとして働いている」という人は少なくない印象がある。実際はどうなのか。

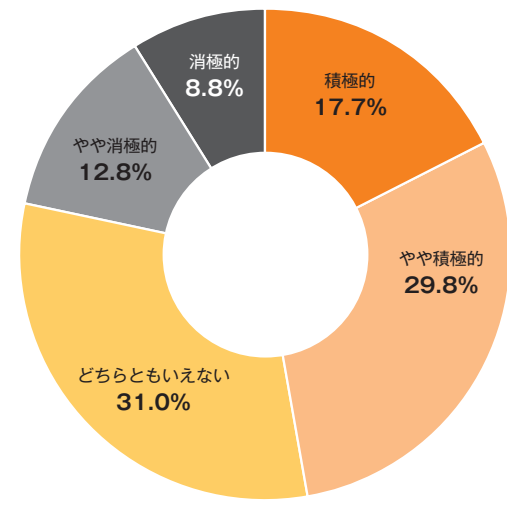
2000人の派遣スタッフを対象とした本誌アンケート調査では、「派遣という働き方」を選択したときの気持ちについて、積極派か、それとも消極派かを聞いた(Ⅱ図表1)。

結果は47・5%の人が「積極的」または「やや積極的」を選択。つまり半数弱の派遣スタッフからは、派遣という働き方をポジティブかつ主体的に選択している様子うかがえた。

不本意非正規雇用労働者ならぬ「不本意派遣スタッフ」に該当すると思われる「消極的」や「やや消極的」に該当する人は全体の

図表1 「派遣という働き方」を選択したときの気持ちについて (回答は1つ) n=2000

- 積極的 = 自ら主体的に「派遣という働き方」を試みたいと思った。
- やや積極的 = 積極的というほどではないが、「派遣という働き方」も良いと思った。
- どちらともいえない = 働きたい仕事が多すぎて派遣だった...など。
- やや消極的 = 望んでいなかったが、「派遣という働き方」しか見つからなかった。
- 消極的 = 本当は「派遣という働き方」はしたくなかった。



回答率(%)は、小数点以下第2位は四捨五入により、小数点第1位までを表示しています。そのため、合計数値は100%にはならない場合があります。

21・6%。この2割強という不本意派遣スタッフの割合は果たして多いのか、それとも少ないのか。

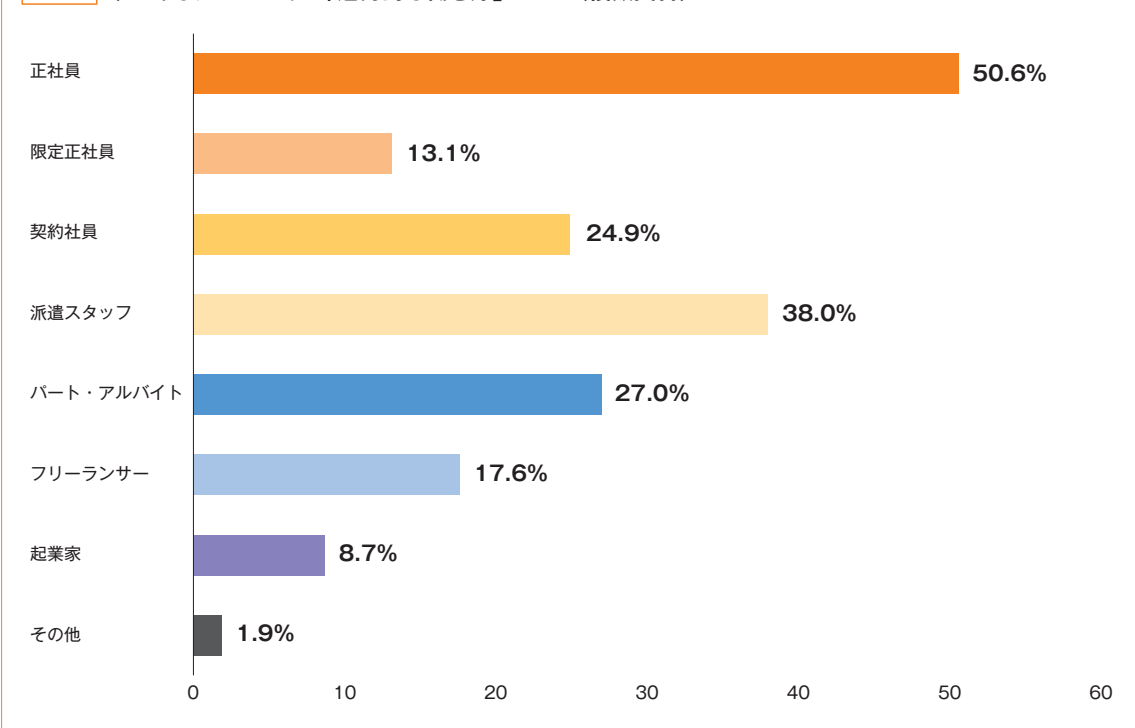
総務庁が公表している「不本意非正規雇用の状況」によると、正社員として働く機会がなく、非正規雇用で働いている人の割合は、非正規雇用労働者全体の10・7%(2021年平均)となっている。2つのデータを単純に比較はできないが、21・6%は不本意非正規雇用者全体の約2倍の割合であり、「不本意度」のレベルでは同じ非正規雇用の中でも「派遣スタ

ッフの不本意度は高め」と見ることはできる。

「不本意」は無期雇用のほうが多い？

次に、派遣スタッフをさらに「雇用形態別」に分けて「派遣という働き方」を選択したときの気持ち」は、有期雇用と無期雇用で異なるのかも検証した(Ⅱ図表2)。有期雇用と無期雇用の比較では、積極派は有期雇用の49・9%

図表3 今のあなたにとっての「魅力的な働き方」とは？（複数回答） n=2000



全体の38%が「派遣は魅力的な働き方」 フリーランサーへの魅力も高まる

派遣とのハイブリッドな働き方も

最も多かったのは「正社員」の50・6%

次に、2000人の派遣スタッフに「今のあなたにとっての『魅力的な働き方』とは？」という質問も行っている。こちらは複数回答で、「正社員」「限定正社員」「契約社員」「派遣スタッフ」「パート・アルバイト」「フリーランサー」「起業家」「その他」の中から、あてはまるものをすべて選択してもらった。

その結果が、図表3のグラフである。

最も多かったのは「正社員」の50・6%。「正社員」の割合が最も高くなることはある程度予想していたが、複数回答である点を踏まえると、全体の半数しかないというのは、ちょっと意外ではあった。

次に多かったのは「派遣スタッフ」の38・0%。質問で「魅力的な働き方」という表現を使ったこともあり、「魅力的というほどではない」という受け止め方をした人も少なくないと思われ、その点も踏まえて数字をあらためて見る

と、38・0%という数字はかなりポジティブな印象を受ける。

フリーランスを意識する派遣スタッフが増加

7つの働き方の中で予想よりも多かったと感じたものには「フリーランサー」がある。最近ではフリーランスの保護をめぐる政策やフリーランスの労働組合の結成など、以前に比べれば「働きやすさ」へ向けた環境整備も進みつつあり、派遣スタッフの間でもその認知は高まりつつある。

「魅力的な働き方」を実現するために「何が必要だと思うか？」という質問においても、フリーランスという働き方を意識したコメントは多く、例えば以下のようなものがあつた。

「派遣会社でスキルアップをする機会があれば、積極的に取り入れてフリーランサーの働き方に活かす」（31歳男性・宮城）

「業務に関する勉強を行いなから、フリーランサーになるための経営に関する勉強もする必要があると感じる」（32歳男性・大阪）

「フリーランサーとして自分で仕事を作り出す力」（34歳男性・愛知）

「フリーでやっていくために、もっとこつこついろいろな知識と気力を培わなければならない」（39歳女性・神奈川県）

「世の中の流れが大きく変わっているので柔軟性のある働き方ができるようなりたいと思う。派遣でも正社員でもフリーランスでも働ける人になりたい」（42歳女性・山口）

「自分のやろうとしていることについて勉強をしながらスキルアップをし、フリーランスとして仕事を受注できるように、人とのつながりを大切にしていきたい」（44歳男性・群馬）

「フリーランスで縛りなく働きたいが、資金がないので、お金を貯めないといけない」（46歳女性・兵庫）

「フリーランスで働くノウハウを身につける」（48歳女性・神奈川県）

「好きなこと、得意なことを活かしてフリーで働きたい」（53歳女性・北海道）

働き方を変えるケースもそれほど珍しくはなくなつたということなのだろう。

今風にいえば、ハイブリッドな働き方の一形態と捉えられようか。

20代男性スタッフに顕著な「多様性」への許容

次に「今のあなたにとっての『魅力的な働き方』とは？」の質問に対する回答を性年代別に見てみると、図表4のような割合になる。

この中で注目したいのは20代男性だ。割合としては「正社員」が61・4%と最も多いが、「限定正社員」の25・0%、「パート・アルバイト」の25・0%、「起業家」の13・6%などは他の性年代と比べても高めであり、「働き方の多様性」が一步も二歩も進んでいる印象を受ける。

また、女性に関しては「正社員」と並んで「派遣スタッフ」を魅力的な働き方として選択している人の割合が高く、特に50代女性では「派遣スタッフ」が「正社員」を逆転し、46・0%が「魅力的」と

「起業家、ときどき派遣」というハイブリッドな働き方も

今回の調査ではあえて選択肢の中に「起業家」も加えた。「個人事業主」であるフリーランスと同様、雇用されない主体性の高い働き方として「起業家」をイメージする人もいるのではないかと思いつき、とりあえず選択肢に加えてみたのだが、ふたを開けると8・7%という意外に高い数字になった。

実は筆者の周りでも、個人事業主、あるいは起業家として事業運営を行う一方で、「仕事に波があり、閑散期には派遣で働いている」という人を何人か知っている。あるいは起業家として店舗も構えているが、閑散期も多く、昼間などは奥さんに店番を任せて、自分は働きに出ている「起業家」もいる。それだけ今の時代は「働き方」の多様化が進んだ一方で、その垣根も低く、わざわざ「起業家」としての看板を下ろさずに、今日は起業家、明日は派遣で出稼ぎ――など、仕事の需給に応じて柔軟に

図表4 性年代別の「今のあなたにとっての『魅力的な働き方』とは？」(複数回答) n=2000

	正社員	限定正社員	契約社員	派遣スタッフ	パート・アルバイト	フリーランサー	起業家	その他
20代男性	61.4%	25.0%	20.5%	29.5%	25.0%	11.4%	13.6%	0.0%
30代男性	67.3%	15.2%	21.8%	29.1%	18.2%	21.2%	9.1%	1.2%
40代男性	63.5%	18.8%	22.5%	28.3%	13.3%	17.1%	7.5%	1.7%
50代男性	52.6%	13.4%	23.6%	30.1%	17.5%	18.4%	12.1%	1.6%
20代女性	53.9%	10.1%	19.1%	38.2%	22.5%	13.5%	10.1%	0.0%
30代女性	49.1%	9.1%	26.5%	47.0%	35.2%	17.8%	8.7%	0.9%
40代女性	46.4%	11.7%	27.1%	43.4%	35.4%	19.1%	8.0%	2.1%
50代女性	34.8%	10.9%	27.7%	46.0%	37.5%	15.7%	5.9%	3.7%

している。
「起業家」に関しては、女性は年代が高くなるほどその割合が減少しているが、男性は20代と50代が高くなっているのが特徴的だ。

派遣スタッフ満足度 との意外な関係

図表5には、派遣会社別の「今のあなたにとっての『魅力的な働き方』とは？」のデータも掲載した。回答した2000人の派遣スタッフが所属する上位13社を対象にしているが、7つの働き方の割合を見ても、各社それぞれ、所属する派遣スタッフの「志向性の違い」などもうかがえ、興味深い。

所属する派遣スタッフ数が多い上位8社に限定して見ると、例えば「正社員」を魅力的と回答している割合ではマイナビワークスが70・0%と高い。同社は直近の「第37回派遣スタッフ満足度調査」において、「再就業率」と「口コミ率」で1位を獲得したが、「派遣スタッフ」を「魅力的な働き方」と回答している割合は意外にも26・7%であった。

このあたりは同じく「正社員」で66・7%と高かったリクルートスタッフィングは、「派遣スタッフ」の割合も43・5%と高めであったのとは対照的である。

「正社員」志向スタッフ からの高い満足度

なぜ、「魅力的な働き方」において、「派遣スタッフ」を選択した人が約4人に1人しかいないマイナビワークスが、派遣スタッフ満足度の「再就業率」と「口コミ率」で1位を獲得できたのか？

それを判断する確たるデータはないが、「正社員」志向の高い派遣スタッフの割合が多い派遣会社は、スタッフ満足度で1位を獲得することの意味はとて、深いように思う。

ここからは推測であるが、派遣スタッフにおける「所属する派遣会社への満足度」には、「将来の正社員でのキャリア」も含めた現在の派遣スタッフとしての働き方への支援という視点も、当然ながら含まれていよう。それは先の7つの働き方について、例えば「フ

リーランス」や「起業家」などの働き方に魅力を感じている派遣スタッフに対しては、「派遣という働き方」以外の働き方も含めたキャリア支援のための相談・サポート体制が、その派遣会社に備わっているのかどうかとも関係してくるように思われる。

そこには「派遣スタッフという立場に限定されない、仲間の一人である人材のキャリア形成をサポートしていく」派遣会社としての姿勢の表れとともに、それが所属スタッフにもしっかりと共有されているという「前提」があつて初めて成り立つという「信頼関係」も感じられる。

各社で異なるスタッフ の「魅力的な働き方」

上位8社の中で「派遣スタッフ」を魅力的な働き方として選んでいる所属スタッフの多かったベスト3は、パーソルテンプスタッフの43・6%、リクルートスタッフィングの43・5%、マンパワーグループの42・3%の順。

また、「フリーランサー」を魅

力的な働き方として選んでいる所属スタッフの多かったベスト3は、アデコの20・2%、パーソルテンプスタッフの19・9%、パソナの17・0%の順。
ちなみに中小規模の「その他の派遣会社」では「パート・アルバイト」や「フリーランサー」を選択している人の割合もそれなりに高い一方で、「正社員」の選択は42・6%と控えめ。登録者募集においてはハイブリッド型も含めた、多様な働き方、キャリア形成に向けた相談・サポート体制が求められるよう。

雇用形態(有期・無期) 別の違いはあるか？

図表6には、雇用形態(有期・無期)別の「今のあなたにとっての『魅力的な働き方』とは？」のデータも掲載した。

「パート・アルバイト」などを除いて、有期雇用スタッフの選択割合がいずれの働き方においても無期雇用スタッフよりも高めになっている。
データからは、多様な働き方へ

図表5 派遣会社別の「今のあなたにとっての『魅力的な働き方』とは？」(複数回答) n=2000

	正社員	限定正社員	契約社員	派遣スタッフ	パート・アルバイト	フリーランサー	起業家	その他
アデコ	53.2%	18.1%	29.8%	36.2%	31.9%	20.2%	10.6%	1.1%
アヴァンティスタッフ	71.4%	14.3%	7.1%	14.3%	14.3%	7.1%	0.0%	0.0%
スタッフサービス	59.2%	12.1%	22.4%	36.8%	21.3%	10.9%	5.7%	0.6%
パーソルテンブ スタッフ	57.7%	12.8%	20.5%	43.6%	27.6%	19.9%	10.3%	1.3%
東京海上日動 キャリアサービス	53.6%	17.9%	21.4%	25.0%	14.3%	10.7%	7.1%	0.0%
パソナ	51.6%	15.0%	26.1%	32.0%	17.0%	17.0%	10.5%	2.0%
ヒューマンリソシア	60.0%	14.3%	22.9%	22.9%	22.9%	14.3%	14.3%	0.0%
ヒューマントラスト	44.7%	26.3%	39.5%	42.1%	42.1%	7.9%	5.3%	0.0%
マンパワーグループ	45.4%	12.4%	30.9%	42.3%	20.6%	14.4%	5.2%	0.0%
ランスタッド	47.7%	15.9%	30.7%	42.0%	29.5%	13.6%	5.7%	1.1%
リクルート スタッフイング	66.7%	17.9%	34.5%	43.5%	20.8%	15.5%	7.7%	0.6%
パーソルバナソニック HR パートナーズ	55.1%	18.4%	24.5%	22.4%	6.1%	12.2%	16.3%	0.0%
マイナビワークス	70.0%	18.3%	15.0%	26.7%	18.3%	11.7%	5.0%	1.7%
その他の派遣会社	42.6%	9.8%	22.7%	39.4%	33.0%	21.3%	9.2%	3.3%

図表6 雇用形態(有期・無期)別の「今のあなたにとっての『魅力的な働き方』とは？」(複数回答) n=2000

	正社員	限定正社員	契約社員	派遣スタッフ	パート・アルバイト	フリーランサー	起業家	その他
有期雇用	51.4%	14.6%	26.6%	38.9%	26.4%	18.3%	9.2%	1.6%
無期雇用	48.5%	9.1%	20.2%	35.6%	28.6%	15.7%	7.3%	2.7%

の興味関心では、雇用の安定度の高い無期転換に比べて有期雇用のほうが高い印象を受けるが、それは雇用の不安定さゆえのリスクヘッジの意味合いも含んでいるのかもしれない。

職業ユーチューバーに
魅力を感じる人も

7つ以外の「その他」(1・9%)の魅力的な働き方としては、以下の内容が挙げられていた。

- 「ダブルワーク」(32歳女性・東京)
- 「副業を充実させる」(38歳男性・栃木)
- 「ブログで収入」(41歳女性・東京)
- 「自給自足に近い生活で、自宅で治療や癒しの提供をすること」(44歳女性・山口)
- 「マルチキャリア」(48歳女性・北海道)
- 「合同会社」(50歳女性・東京)
- 「あまり形態は気にしていない」(52歳女性・愛知)
- 「在宅筆耕をしたい」(56歳女性・埼玉)

「ユーチューバー」(59歳男性・埼玉)
「ブログで収入」や「ユーチューバー」などは、どちらかというところ職場などで同僚と一緒に働くよりも、個人の裁量で自由に働くことに魅力を感じるタイプといえようか。

それ以外では「早期リタイア」(45歳男性・神奈川)、「できれば働きたくない」(49歳女性・滋賀県)、「本当はできれば働きたくない」(53歳女性・東京)、「疲れてしまったので働きたくない」(59歳女性・千葉)など、ちょっとお疲れモードのコメントも。

「魅力的な働き方」
実現に必要なこと

32〜33頁のカコミには、「魅力的な働き方」を実現するために「何が必要だと思うか？」という質問に対するコメントの中から、派遣スタッフの「魅力的な働き方」の実現へ向けたサポートの参考になりうる内容のものをいくつかピックアップした。

キーワードの一つとしては、以

「魅力的な働き方」を実現するために「何が必要だと思うか？」

- 「今は子育てとの両立をするため、仕事をセーブしながら短時間などで働いているので、仕事・家事・育児の合間に資格の勉強をして、育児が落ち着いたら就活をしたい」(30歳女性・愛媛)
- 「派遣会社でスキルアップをする機会があれば、積極的に取り入れてフリーランサーの働き方に活かす」(31歳男性・宮城)
- 「常勤と派遣のダブルワークを両立できるように生活リズムを整える」(32歳女性・東京)
- 「業務に関する勉強を行いながら、フリーランサーになるための経営に関する勉強もする必要があると感じる」(32歳男性・大阪)
- 「今よりも専門的な知識が必要になってくると思います。今後IT人材は不足していくとされている中で、ITのスキルを豊富に持った人材は重宝されます。実績は働く過程の中で積んでいくのかもしれませんが、休暇にもスキル取得のために勉強会をしたり、オンラインで受講できるエンジニア育成の登録をしたりして継続して自己研鑽をしていく必要があると考えています」(32歳男性・岡山)
- 「紹介してもらえるジャンルや視野を広げて就職できる確率を上げるため、新たに資格を増やし、今持っているスキルを高めること」(34歳女性・千葉)
- 「不特定多数の人間に気に入られるような演技力」(36歳女性・栃木)
- 「自己研鑽と目標の明確化をし、資格を取得し、自分のキャバを増やしていく」(36歳男性・埼玉)
- 「正社員・派遣など形態にはこだわらないが、投資などで資金を増やして余裕を持った状態で自分の好きなことを仕事にした」(37歳男性・滋賀)
- 「日本語講師の仕事に興味があり、英語で日本語を教える仕事に付きたいと思っている。そのための養成講座のある語学学校も見つけた。後は受講料と体調を整えればいつでも受講可能である。オンラインで生徒に日本語を教えることを希望している。新しい働き方にチャレンジしたい」(38歳女性・千葉)
- 「コツコツ真面目に働き、派遣先と派遣会社から信頼を得ること。そうすれば仕事継続のチャンスがつかがると思うので」(38歳女性・神奈川)
- 「まずは現職でコネクションと信頼を得て、『この人に発注したい』と思わせる人材になること」(38歳女性・大阪)
- 「まずは派遣として経験を積み、派遣先からの信頼を得る」(40歳女性・大阪)
- 「ある程度のスキルがないとやりたい仕事はできないが、今の環境では実務経験が積めないため、資格取得で穴埋めしたい」(41歳女性・東京)
- 「世の中の流れが大きく変わっているので、柔軟性のある働き方ができるようになりたいと思う。派遣でも正社員でもフリーランスでも働ける人になりたい」(42歳女性・山口)
- 「今まで経験した業務を無駄にしないために、経験した業務でさらに必要なスキルを身に付ける」(43歳女性・千葉)

- 「スキルアップのためのパソコンスキルの勉強と一つの仕事を継続する意思、忍耐力、仕事従事への責任意識とプライド、自信を持つこと、楽しむこと、報連相ができること、悩みを抱え込まず家族に話すこと、休まないこと。それに雇用企業からのサポート」(44歳女性・東京)
- 「具体的にやりたいことを決める。目標を決めたら、ゴールまでのプランを立てる。やらなくてよいことも決めて、処分していく」(45歳女性・神奈川)
- 「派遣に限らず求職サイト全般において、仕事のジャンルが偏り過ぎているところがあるので、もっと広く情報が欲しい。資格取得についても、自分自身でもっと情報を得て学習する必要がある」(46歳男性・福岡)
- 「フリーランスで縛りなく働きたいが、資金がないので、お金を貯めないといけない」(46歳女性・兵庫)
- 「在宅業務で生計を立てるために、資格またはスキルの習得」(46歳男性・新潟)
- 「対応できる職種を増やすために、いろいろなスキルが必要」(47歳男性・東京)
- 「フリーランスで働くノウハウを身につける」(48歳女性・神奈川)
- 「自分の専門性を高める」(50歳女性・東京)
- 「情報を見逃さないこと、積極的に動くことが必要」(50歳女性・愛知)
- 「二足のわらじを履き、自由な仕事を行える環境と時間を作っていくことを優先したい」(50歳女性・三重)
- 「紹介してくれる派遣会社の担当者と、もっとコミュニケーションを取っておく必要があると思う」(51歳女性・東京)
- 「分からないから、相談する」(51歳女性・千葉)
- 「行動力が必要だと思う。日常のことに追われがちだが、何かを変えるためにはとにかく何か始めることが大事だと思うから」(52歳女性・東京)
- 「人の能力をきちんと評価できる企業に出会うこと」(53歳女性・大阪)
- 「派遣は期間があって、それはそれで楽だが、歳をとって新しい仕事を覚えられるのかが心配がある。それなら、パートで安定を取るのもありかも思う」(50歳女性・群馬)
- 「自己研鑽。第三者に評価されるような経験を積む」(52歳男性・千葉)
- 「コロナだけでなく、さまざまな情勢の変化があるため、ケースバイケースで自営、派遣、委託契約など自分にとってうまく立ち回れるようになればいい」(54歳男性・東京)

「派遣に限らず求職サイト全般において、仕事のジャンルが偏り過ぎていくところがあるので、もっと広く情報が欲しい。資格取得についても、自分自身でもっと情報を得て学習する必要がある」(46歳男性・福岡)

さらに、「紹介してくれる派遣会社の担当者と、もっとコミュニケーションを取っておく必要があると思う」(51歳女性・東京)や「分からないから、相談する」(51歳女性・千葉)など、良き伴走者としての派遣会社との関係性に期待するコメントも少なくなかった。やはり派遣会社としての満足度を高めるための近道は、派遣スタッフ一人ひとりの声に耳を傾けることなのだろう。

次号予告

特集「学び支援機関」としての人材ビジネス(仮)

派遣スタッフは今、どんな資格・技能を欲しているのか？
派遣スタッフの資格取得支援などの取材事例なども含めて大公開！

下のコメントにあるように、「勉強」や「資格の取得」の機会を検討している派遣スタッフに対するサポートが挙げられよう。

「今は子育てとの両立をするため、仕事をセーブしながら短時間などで働いているので、仕事・家事・育児の合間に資格の勉強をして、育児が落ち着いたら就活をしたい」(30歳女性・愛媛)

「今よりも専門的な知識が必要になってくると思います。今後IT人材は不足していくとされている中で、ITのスキルを豊富に持った人材は重宝されます。実績は働く過程の中で積んでいくのかもしれませんが、休暇にもスキル取得のために勉強会をしたり、オンラインで受講できるエンジニア育成の登録をしたりして継続して自己研鑽をしていく必要があると考えています」(32歳男性・岡山)

「日本語講師の仕事に興味があり、英語で日本語を教える仕事に付きたいと思っている。そのための養成講座のある語学学校も見つけた。後は受講料と体調を整えればいつでも受講可能である。オンラインで生徒に日本語を教えることを希望している。新しい働き方に